

おもしろいことに、故郷が一緒だったり、出身校が同じだったりすると「とすると〇〇先生を知っていますか？」などと突然、親しげに語りかけ、初対面の固さなど吹き飛んでしまうことがある。

お互いの共通項が見つかり、と会話が滑らかになるのは、あれこれ胸の内を探らなくても共感や同調がしやすい土壌がいくつもあるからなのだ。

日常の会話の中でも、相手が共感の気持ちを示してくれると、話す側はうれしいものだ。「分かる、分かる」「そうですよね」「確かに」「おっしゃるとおりです」「同感です」「なるほど」といった共感を示す相づちを会話にはさむと効果的。「この人は私に関心を持ってくれている、分かってくれている」と気分が乗ってきて、もっと話したくなるものなのだ。

一般的に仲間同士だと打ち解けて「そうだよね」と共感を示しやすくても、仕事関連や全く他人との会話だと消極的な受け答えに終始しがちだ。共感の相づちを思い切って使ってみると、その一言が相手の心の扉をノックし、開かせるだろう。

⑥ 会話を盛り上げる

共感の相づちを交える

(コミュニケーションスキル主宰 今井 登茂子)